

『現代女性とキャリア』第6号によせて

現代女性キャリア研究所所長

大沢 真知子

女性の能力をもっと活用し、活躍を推進するための社会作りに向けて、日本の社会が大きく、動きだそうとしています。そのような時代の変化のなか、本研究所は昨年の12月に「女性の活躍推進に、いま何が求められているのか」というタイトルで、シンポジウムをおこないました。

日本の就労パターンはM字就労といわれ、育児期に女性の労働力率が下がるのが特徴といわれましたが、実は、高学歴の女性のなかには、それ以前にキャリアの先がみえないなどの理由で転職する女性が少なくありません。男性と比べて女性の離職が多いことが、女性が受ける教育訓練の少なさの理由として説明されてきましたが、実際には、そのことが女性の離職の理由になってしまっていたのです。つまり、離職するだろうと予言して訓練の機会を少なくしていたことが女性の離職を招いてしまっていた、ということなのです。

12月のシンポジウムでは、それが日本社会全体にとって深刻な人的資源の浪費であるということ、それにたいしてどうしたらいいのかということについて、議論が交わされました。本号には、そのシンポジウムの記録を収録しています。

また、2012年度に当研究所が教職教育開発センターと共同で、本学卒業生の教員免許状取得者を対象に実施した「教職免許状取得者のキャリアに関する調査」結果の概要についても掲載しています。

3年目となる投稿論文には、多くの応募があり、査読審査の結果、3本が掲載となりました。査読は各専門分野の先生方をお願いしましたが、学外の先生方にもご尽力をいただきました。ご協力いただいた先生方にはこの場をかりて、厚くお礼を申し上げます。

新企画として、今号より書評欄を設けました。今後も、女性とキャリアに関する書籍を幅広く取り上げていく予定です。書籍に関する情報等も、どうぞ、お寄せください。

今号をご一読いただき、ご意見をいただければさいわいです。